

第十七回 特定非営利活動法人おにの家

〜おにっこまつり〜



子どもの頃に読んだ物語は、大人になってもよく覚えていることが多くあります。特に童話は、読み聞かせやテレビで、目に、耳にする機会が多かったのではないのでしょうか。「桃太郎」や「浦島太郎」といった話は、あらずじを覚えていいる人がほとんどでしょう。

また、大人になってから読んでも、心に響くものも多くあります。特定非営利活動法人「おにの家」の代表も、ひとつの童話に心を打たれたそうです。それは「ないた赤おに」（浜田広介著）。

「ふもとの村人たちと仲良くなりたい心の優しい赤おに君のために、一芝居うった青おに君。（略）青おに君の深い友情と、赤おに君の熱い涙に感銘し、『おにの家』と命名しました。」（おにの家ホームページより）。

「おにの家」は、平成十八年にNPO法人として設立。それ以前から、地域福祉グループとして、デイケア施設や生活ホームを運営していました。また、当時から手作り味噌の製造販売や、コーヒーやランチを提供する「おにっこハウス」も運営しており、障がいを持つ人たちが、ホームなどを利用して自立・自活できるように活動されていきました。

このような「おにの家」ですが、とても大きなイベントを行っていません。それが「おにっこまつり」です。福祉施設で行うのではなく、一つの公園を利用して開催されるこのお祭りは、多くの方が訪れ、また出店し、とても賑やかに行われます。今回は、この「おにっこまつり」を取材させていただきました。

平成二十九年五月二十一日（日）、五月とはとても思えない暑さであったこの日、「第二十一回おにっこまつり」が盛大に開催されました。このお祭りは、平成九年からおにっこハウス敷地内にて開催されており、平成二十二年より熊谷市江南総合公園にて行われるようになりました。



多くの人で賑わう公園内

最初はおにっこハウスの誕生日を祝う、あくまで身内でのお祭りでしたが、次第に参加者も増え、敷地内では狭くなったということ、現在の江南総合公園での開催となっております。

今年の出店数はなんと百十六店舗。内容も飲食品の販売からフリーマーケット、手作り品の販売など多岐にわたります。かき氷やからあげ、ケーキといった、よく販売される食べ物だけでなく、ケバブやミャンマー麺、タイカレーといった、エスニックな食べ物も出店されており、ちよつとした海外気分も味わえます。



このお祭りに参加しているのは、実は人間だけではありません。近くの牧場から、羊とヤギたちが参加しています。この動物たちには、えさやりをすることが出来ます。ニンジンやレタスなどの野菜を差し出すと、勢いよく食べ始めるので、子ども達も恐る恐るあげています。たくさん野菜が食べられるので、ヤギ達も大喜びの様子でした。

さらに今回は、羊の毛刈り体験コーナーもありました。初めて行う毛刈り、ゆっくりとハサミをいれ、刈り取っていました。刈り取られた羊も、体験をした子ども達も、とても満足そうにしていました。

歩き疲れたら、舞台でのアトラクションを楽しみながら休むことができます。一日を通してプログラムが組んであり、退屈することはありません。ステージ上では太鼓の演奏から始まり、アンサンブルにフラダンス、エイサーやちんどんやまで、非常に多種多様です。お祭りを始めた当初は、団体に参加を依頼していましたが、現在では出演をお断りするくらいに。中央ステージだけではなく、第二ステージも設け、こちらでもイベントを行っています。これらのおかげもあり、会場内は常に賑やかで、楽しそうな音楽で満たされています。

買い物や食事だけでなく、アトラクションも用意されており、楽しむことができます。お宝釣りや金魚すくい、ニジマスのつかみ取りも行われており、ニジマスはその場で焼いて食べることが出来ます。活きがよく、ボックスの中をたくさん泳いでおり、つかみ取りに挑戦した子ども達は歓声をあげながらチャレンジしていました。

会場内で、ひとときわ目を引く存在があります。電動のシニアカーに荷台がつき、車掌帽をかぶった人が小さなお客様を乗せて走り出す。「おにっこトーマス号」です。普段はおにっこハウスの味噌加工所で、味噌だるといった重い荷物を運んでいます。この日は子ども達を乗せる「汽車」に変身します。かわいらしい鬼の面をつ



滅多にない体験に興味津々です



特定非営利活動法人 おにのいえ

TEL:048-536-1344

HP:http://onikko.org/

ています。

小型のテントを木陰に設け、途中で涼しく休まれている方もたくさんいました。常連の方も多くいて、楽しみ方を知っているんだ、と印象に残る光景でした。炎天下の中での開催でしたが、心から楽しめ、「行って本当によかった」と思える素敵なお祭りでした。



大人気のおにっこトーマス号

もはや一施設のイベントではなく、「地域のおまつり」となっているおにっこまつり。代表は、障がいのある人もない人も区別なく、というのが大切だと考えています。「ハンデがある人が、気兼ねなく、特別扱いされることもなく、大手を振って普通に楽しめるお祭りでありたい」とおっしゃっていました。その言葉のとおり、みなさんとても楽しんでいらつしやいました。

ここ熊谷の「おにっこ」たちは、地域の人々に愛されながら、一緒に暮らしています。

特定非営利活動法人おにの家で運営する「おにっこハウス」では、自家焙煎のコーヒーやケーキを楽しめるほか、日替わりの手作りランチや、おにっこ地卵の親子丼も楽しめます。ハンデのある人もない人も、お互いを補いあいながら、ともに働いているカフェです。興味のある方は是非おこしください。かわいらしい動物たちもお出迎えしてくれま